



現代アメリカ小説研究

人文科学系・言語文化学領域

竹本 憲昭

教授

TAKEMOTO Noriaki

修士(文学)(東京大学)

■研究キーワード アメリカ文学

■主な所属学会 東大英文学会, 日本英文学会, 日本アメリカ文学会 中四国支部, 日本アメリカ文学会 関西支部

■研究者総覧 <https://koto10.nara-wu.ac.jp/profile/ja.8c771222a891af96520e17560c007669.html>



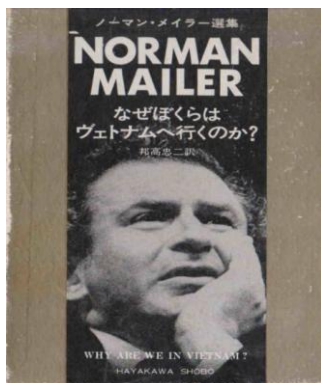
研究者総覧

研究概要

現代アメリカ小説を研究しています。特に第二次大戦後に発表された作品を幅広く研究しており、主要な作家の代表的な作品を論じてきました。

1940年代から70年代にかけてユダヤ系の作家の活躍が目立ち、ソール・ベローがノーベル文学賞を受賞していますが、ベローの作品では代表作の『ハーツォグ』を論じています。ベローと双壁をなすかたちで君臨したノーマン・メイラーに関しては、『アメリカの夢』や『なぜぼくらはベトナムへ行くのか?』など多くの作品を取り上げてきました。遅れて登場し、長きにわたって活躍したフィリップ・ロスは出世作『ポートノイの不満』を考察しました。

ポストモダン作家の研究も多彩に展開しており、ジョン・ホークス、ウィリアム・ギャディス、イシュメール・リード、ジョン・バース、トマス・ピンチオン、ロバート・クーヴァー、ドナルド・バーセルミ、カート・ヴォネガットなどを扱ってきました。



アピールポイント

現代アメリカ小説は、トマス・ピンチオンの作品などに顕著に認められるように、ポップカルチャーの理解を求めるものが少なくありません。したがって、ポップカルチャーの具体的な分析をもとにした新たな作品解釈の可能性が十分にあります。これまでに、ポピュラー・ミュージックと絡めるかたちで、ピンチオン、メイラー、アン・ビーティ、ウィリアム・ギブスンの作品を論じてきました。特にアメリカのポピュラー・ミュージックとしては重要な位置を占めながら、日本では十分に理解されていないジャンルであるカントリーについて概説しながら、文学作品におけるカントリーへの言及を分析しています。

現代アメリカ作家にはヴォネガットのようなSF的手法を得意とする純文学作家がいますが、SF作家とみなされるギブスンのような作家もエンタテインメントを超えた価値をもつ作品を発表しています。ギブスンのほかにフィリップ・K・ディック、アーシュラ・K・ル＝グィン、レイ・ブラッドベリ、サミュエル・R・ディレーニーなどによる、そのようなエンタテインメントを超えたSF作品をいくつか取り上げて、文学的価値を考察してきました。

アメリカは様々な戦争に係わり、そのため戦争を題材にした小説も数多く発表されていますが、これまでにメイラー、ホークス、ヴォネガット、ジョージ・ヘラー、ジャージー・コジンスキー、ティム・オブライエンなどの戦争を題材とした小説を分析し、第二次世界大戦からベトナム戦争まで、どのような観点からいかなる方法で戦争が描かれてきているかを論考しています。